（説明資料６）

「職務の級及び号給決定計算書」の記入例

（様式第５号）

職員番号

この間は勤務箇所及び職務内容等の欄に記入する。（例：無職（予備校在学））

在職期間とずれが生じないように、入学、卒業年を正しく記入する。

管[illegible]の経[illegible]書　　令和　年　月　日　採用　　区分（人事担当課が○で囲む）正規・任期付（　）・臨時的

フリガナ	フクシマ ハナコ	性別	女	生年月日	昭和 平成 4年 11月 21日
氏名	福島　花子				

卒業学校名（中学校から）	在学期間	修学年数	卒業修了中退の別
郡山市立安積中学校	自 H17・4・1 至 H20・3・31	3・0	卒・修・退
福島県立安積高等学校	自 H20・4・1 至 H23・3・31	3・0	卒・修・退
福島大学　人間発達文化学類	自 H24・4・1 至 H28・3・31	4・0	卒・修・退
	自 至	・	卒・修・退

勤務歴がある場合、社会保険加入の有無に必ず○を付ける。

民間会社等の場合、会社の形態、採用形態、週当たりの勤務日数、一日当たりの勤務時間数及び職務内容を記入する。

大学中退の場合は、年度ごとに取得単位数を（　）書きで記入する。

非常勤講師（月手当）の場合、週当たり勤務日数及び授業担当時間数を記入する。
（授業を行わない非常勤職員は、職名及び週当たり勤務時間数を記入）

時間講師の場合、週当たり勤務日数、週当たりの勤務時間数及び授業担当時間数を記入する。

勤務箇所及び職務内容等	社会保険加入の有無	在職期間	年数	換算率
無職（予備校在学）	有 無	自 H23・4・1 至 H24・3・31		
郡山商事㈲、正規採用、**週5日、1日8時間勤務**、職務内容（事務）	有 無	自 H28・4・1 至 R1・3・31		
全日本進学塾（個人）、臨時採用、**週3日、1日5時間勤務**、職務内容（講師）	有 無	自 R1・6・1 至 R2・3・31		
○○県立○○高等学校、非常勤講師（月手当）（初任研）、**週当たり4日勤務、授業担当時間数18時間**	有 無	自 R2・4・1 至 R3・3・30		
無職	有 無	自 R3・3・31 至 R3・3・31		
○○県立○○高等学校、時間講師（初任研）、**週当たり4日勤務、週当たり18時間勤務、授業担当時間数14時間**	有 無	自 R3・4・1 至 R4・3・30		
無職	有 無	自 R4・3・31 至 R4・9・30		
○○県立○○高等学校、常勤講師（欠員補充）~~（1ー△号給）~~	有 無	自 R4・10・1 至 R8・3・31		
	有 無	自 至		

級及び号給の記入は不要。

受験種別（教科）及び受験番号を記入する。

署名する。

記入枚数について、○枚中○枚目を記入する。

上記のとおり相違ありません。
令和　年　月　日　氏名（自署）

受験種別・教科　・　受験番号　（　枚中　枚目）

記入上の注意	1　太枠内のみ記入すること。 2　採用月日の前日までの職歴を記入すること。

所属名		コード		職名	

給料表	行政職・教育職・研究職・医療職（二）・医療職（三）・技労職 小中教育職・高校教育職・事務職・医療職
最終学歴	博士・修士・専門職学位・6年制大学・大学専攻科・4年制大学・3年制短大 [illegible]高校専攻科・3年制高校・2年制高校・中学
	短大・高校・中学
	基準学歴修学年数　修学年数調整
	月）＝（±　年　月）
	2．5割　計
の換算	年　月　年　月　年　月　年　月　年　月
	験年月数
職務の級	（　）級　必要経験年数（　年　月）　※上級係員で採用する場合に記入。
経験年数調	必要経験年数　年　月） 調整対象年数 ＝（　年　月）　※正規の在学年数として換算した10割の期間は除く （　年　月）×5/5＝（　年　月）・・・a （　年　月）×4/5＝（　年　月）・・・b （　年　月）×2/3＝（　年　月）・・・c
	換算率10割の年数　規則第13条調整年月数 （　年　月）－（　年　月）＝（　年　月）
調整号給数	修学年数調整（規則第12条）（　×4）＋（　÷3）＝（　号給） 経験年数調整（規則第13条）（　×4）＋（　÷3）＝（　号給）
決定級号給	初任給基準表による級号給　（　級　号給） 決定する級号給　（　級　号給）

給料	採用前経験年月数	採用前調整年月数	決定者印
職給料表（　） 級　号給	年　月	年　月	

採用CD	採用年月日	基準学歴	最終学歴 区分	最終学歴 卒業年月	職・格付	発令年月日
	年　月　日			年　月	・	年　月　日

2025.10様式（記載例）